

四国開発フェリー株式会社 大阪南港と愛媛県・東予港を結ぶ オレンジフェリー

大阪と愛媛を結ぶオレンジフェリー（おれんじおおさか・おれんじえひめ）。大阪南港と愛媛県・東予港を約 8 時間で結ぶ。今年は大阪・関西万博や、瀬戸内国際芸術祭 2025 など、大阪から瀬戸内海にかけての大きなイベントがあり、トラックや自家用車で移動するドライバーにも、仕事や健康面での負担を軽減してくれる船旅は利用者が多い。また、愛媛県の東予港から今治市へのアクセスが良く、サイクリストの聖地と呼ばれる今治から尾道までの「しまなみ海道」を楽しむ旅行客に、オレンジフェリーの「マイバイクステイサービス」が人気だ。

本組合の中・四国地方支部管内執行委員会が、今治市の愛媛支部で行われるのに合わせ、田中伸一組合長代行と荻山淳中央執行委員会企画室長代行が、その移動に大阪南港からオレンジフェリーを利用した。大阪南港から「おれんじおおさか」に乗船し、明石海峡航路から播磨灘、備讃瀬戸大橋を通過して、約 8 時間の航海で愛媛県・東予港に到着。「おれんじおおさか」は、「おれんじえひめ」と 2 隻体制で同航路に就航している。

カーフェリーのコンセプトは「動くホテル」。客室はシングルとツインタイプの全室が完全個室。いつでも利用できる展望風呂も魅力の一つで、航海中は瀬戸内海に浮かぶ島々と壮大な海の景色を満喫しながら、お風呂を楽しむことができる。

海技の伝承・未来へ紡ぐ操船技術・東予港での回頭着岸

オレンジフェリーが入港する東予港は、愛媛県の西条市と新居浜市にある港湾で、重要港湾に指定されている。愛媛県の工業活動の中核として重要な位置を占め、臨海部に立地する工場の原材料や製品の輸出入、阪神地域とを結ぶフェリーでの移動を中心に、産業活動と地域の物流を支える拠点港として重要な役割を果たし、現在は複合一貫輸送ターミナルの整備を進めている。

東予港は入出港時の水路が非常に狭く、大型カーフェリーの船体を港内で回頭させて着岸させる高度な操船技術が必要とされる港である。

「おれんじおおさか」の村瀬孝浩船長は「愛媛県東予港は新ターミナルに完全移転した。この愛媛県東予港は入港時の航路幅が狭く、港内は回頭しての着岸となる。さらには愛媛県の中心都市である松山市に抜ける峠「桜三里」から風が吹き降ろすため、着岸作業は、一層の緊張を伴う。乗組員一同、日々緊張感を持って安全運航に努めている。今後とも安心・安全で快適な船旅をお客様に届けたい」と語った。

「海員だより」